



YAMAHA

取扱説明書

SEROW
XT225WE

5MP-28199-J3

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明しております。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示しております。
	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示しております。
	取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示しております。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示しております。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間
- 保証書の発行（保証書裏面の記入・捺印）

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために	1-1	運転操作	5-1
あなた自身と同乗者のために	1-1	始動と暖機運転	
歩行者と他の車のために	1-4	(エンジンが冷えている時)	5-1
環境・住民の方との調和のために	1-5	エンジン始動	
各部の名称	2-1	(エンジンが暖まっているとき)	5-1
左側面	2-1	ギヤチェンジのしかた	5-2
右側面	2-2	ならし運転	5-2
運転装置と計器類	2-3	駐車	5-2
各部の取り扱いと操作	3-1	点検整備	6-1
キーの取り扱い	3-1	点検整備の実施	6-1
メインスイッチ	3-1	サービスツール	6-2
表示灯	3-2	カバーの取り外し、取り付け	6-2
スピードメーターユニット	3-3	エンジンオイル	6-3
ハンドルスイッチ	3-3	エンジンのかかり具合、 異音の点検	6-4
フューエルタンクキャップ	3-5	低速、加速の状態の点検	6-5
燃料	3-6	エアクリーナーエレメントの清掃	6-5
フューエルコック	3-6	タイヤ	6-7
チョークノブ “N”	3-7	クラッチ	6-8
ヘルメットホルダー	3-7	ブレーキレバーの遊び／ ブレーキペダルの遊び、および ブレーキのきき具合の点検	6-9
書類入れ	3-7	ブレーキランプスイッチ	6-9
フロントフォークのエア抜き	3-8	ブレーキパッドの点検	6-10
リヤクッションの調整	3-8	ブレーキ液量の点検	6-11
イグニッションサーキット		ブレーキ液の補給	6-11
カットオフシステム	3-10	ドライブチェーン	6-12
日常点検	4-1	ドライブチェーンの給油	6-13
日常点検の実施	4-1	バックミラー	6-13
日常点検箇所／点検内容	4-1	車体各部の給油脂状態の点検	6-14
アンダーブラケットの 取り付け状態の点検	6-14	お車の手入れ	7-1
バッテリー	6-14	洗車	7-1
ヒューズの交換	6-16	保管のしかた	7-2
灯火装置および方向指示灯の 点検	6-16	アフターケア用品について	7-2
運行において異常が認められた 箇所の点検	6-17	製品仕様	8-1
ユーザー情報	9-1	サービスマニュアル（別売）の 紹介	9-1
		車両情報	9-1

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

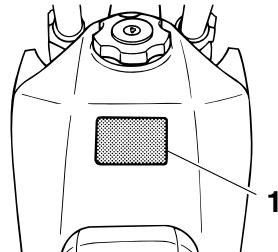
JAU27280

あなた自身と同乗者のために 安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。

JAU27400



1. 安全項目ラベル

警 告

- ・取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ・ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ・マフラーは熱になります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ・ヘッドライトを昼間はロービーム点灯しましょう。
- ・違法改造はやめましょう。
- ・定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

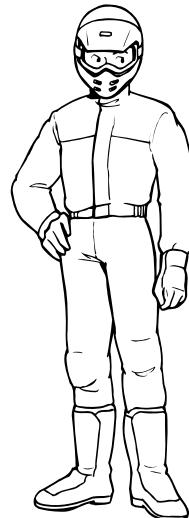
3XC-2118K-10

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットはSまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをします。頭にしつくり合って、圧迫感のないものが最適です。

安全運転のために

1



わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。

- 靴はかかとが低く、足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

JWA11600

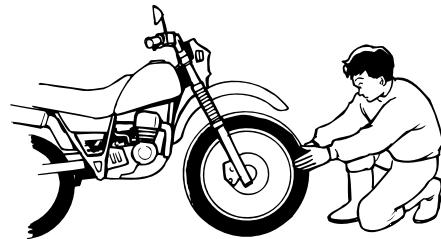
⚠ 警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた1日1回ご使用前に行う日常点検と、法令で定められた6か月、12か月ごとに行う定期点検は必ず実施してください。

- グローブを必ず着用してください。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は、明るく目立つ色で動きやすく、体の露出が少ないものを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。ズボンのそそや袖口の広い服は、運転操作のじゃまになり、思



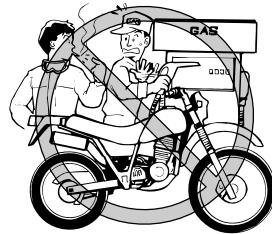
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面に燃料、オイル、冷却水などが漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

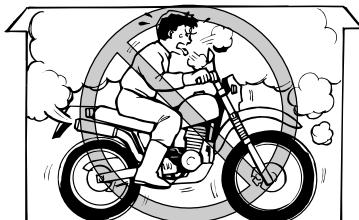
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物はしっかり固定する

荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。

荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。



乗車定員は2名

ただし、免許取得後1年未満の運転者は、法令により2人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



安全運転のために

1

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。

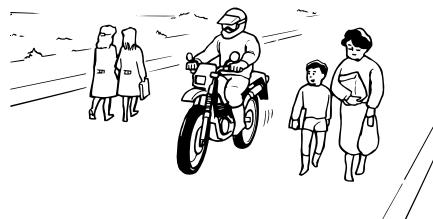
また、保険の期限切れにも注意してください。



歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

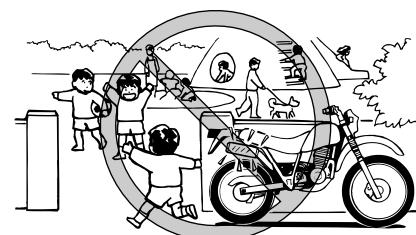
- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



JAU27480

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しないようにしてください。

- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。



JWA11630

▲警告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーーやエンジンなどが熱くなっています。触るとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーーやエンジンなどに触れない場所にしてください。

駐車

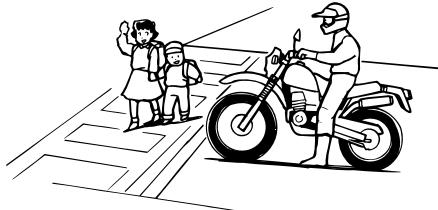
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、Pロック、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじやまにならない場所に駐車してください。

JAU27590

環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。



特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



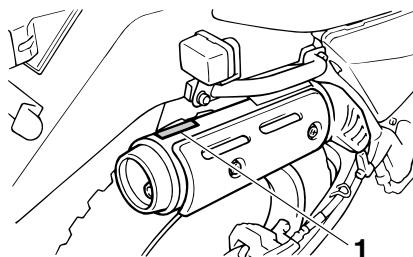
違法改造はしない

違法改造は法律により禁止されています。

改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。

また、改造すると車の保証が受けられません。

なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



1. “YAMAHA”マーク

環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。



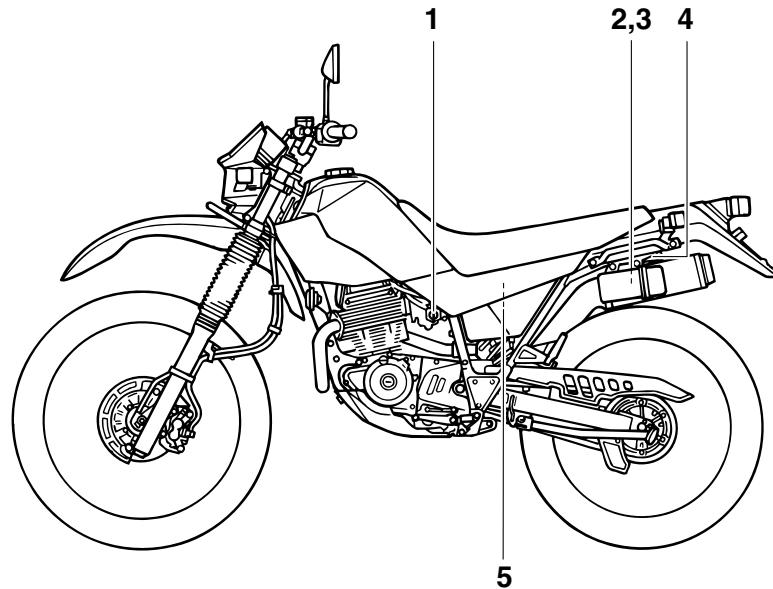
河原・森林・山野には小鳥や小動物がいます。
走行場所・走行方法には
十分気をつけて走りましょう。

各部の名称

左側面

JAU10410

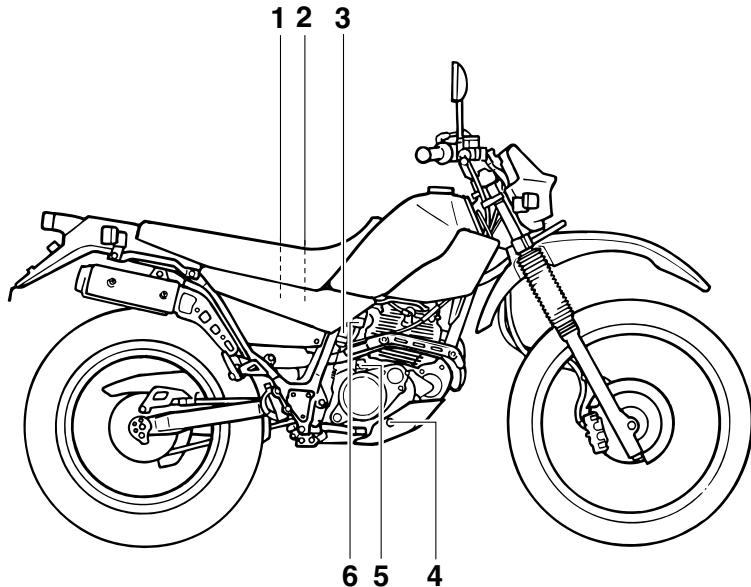
2



1. フューエルコック (P3-6)
2. サービスツール (P6-2)
3. 書類入れ (P3-7)
4. ヘルメットホルダー (P3-7)
5. エアクリーナーエレメント (P6-5)

右側面

2



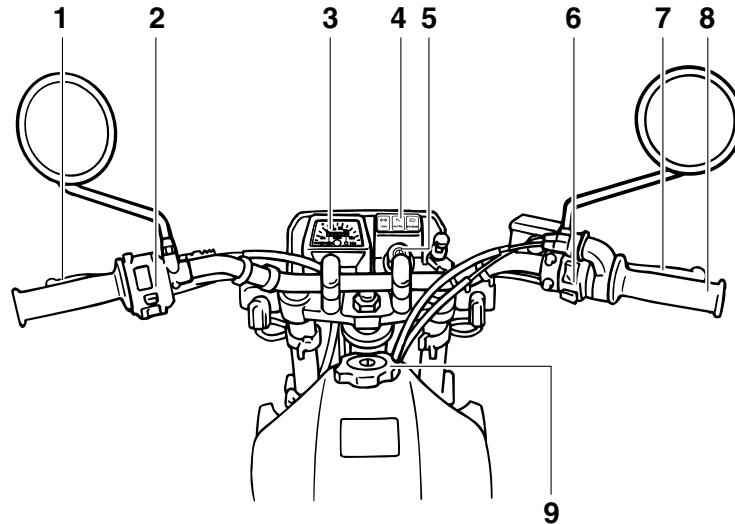
1. ヒューズ (P6-16)
2. バッテリー (P6-14)
3. ブレーキランプスイッチ (P6-9)
4. エンジンオイル点検窓 (P6-3)
5. オイル注入口 (P6-3)
6. リザーバータンク

各部の名称

運転装置と計器類

JAU10430

2



1. クラッチレバー (P6-8)
2. ハンドルスイッチ (左) (P3-3)
3. スピードメーターユニット (P3-3)
4. 表示灯 (P3-2)
5. メインスイッチ
6. ハンドルスイッチ (右) (P3-3)
7. フロントブレーキレバー
8. スロットルグリップ
9. フューエルタンクキャップ (P3-5)

キーの取り扱い

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、充分に注意してください。
- キーは2本付属しています。1本は予備として大切に保管してください。
- 1本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。
- キーを2本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。



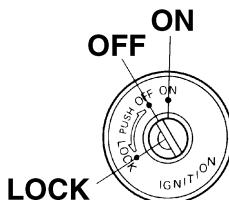
▲注意

金属製等のキーホルダーをつけると、車体を傷つけるおそれがあります。

JAU31080

メインスイッチ

JAU10460



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入／切」、ハンドルロックを行います。

JWA11620

▲警告
走行中にメインスイッチをOFFやLOCKの位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA12500

▲注意

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。
- エンジンをかけないでメインスイッチを

ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。注意してください。

JAU34440

ON

全ての電気回路に電源が供給され、テールランプとメーター灯が点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要点

エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチをOFFにするまで点灯し続けます。

JAU10660

OFF

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

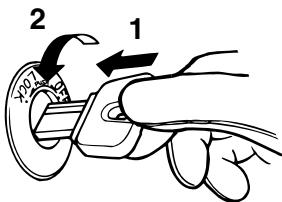
JAU10690

LOCK

ハンドルがロックされます。全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

各部の取り扱いと操作

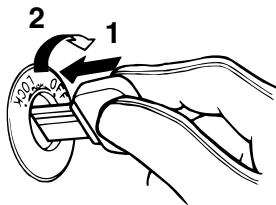
ハンドルロックのしかた



3

1. 押す
2. 回す
1. ハンドルを左または右にいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

ハンドルロックの解除のしかた



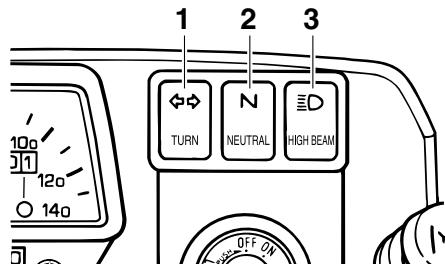
1. 押す
2. 回す
- LOCK の位置でキーを押しこみ、そのまま OFF まで回します。

JWA11450

▲警告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停止中に操作してください。

表示灯



1. 方向指示器表示灯 “ $\leftarrow \rightarrow$ ”
2. ニュートラルランプ “N”
3. ヘッドライト上向き表示灯 “H”

JAU11020

方向指示器表示灯 “ $\leftarrow \rightarrow$ ”
方向指示器に合わせて点滅します。

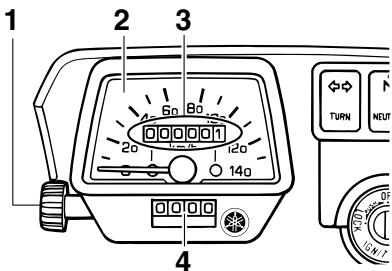
JAU11060

ニュートラルランプ “N”
ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU11080

ヘッドライト上向き表示灯 “H”
ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

スピードメーターユニット

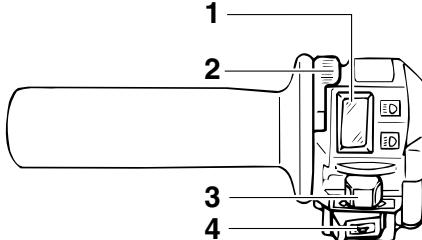


1. リセットノブ
2. スピードメーター
3. オドメーター
4. トリップメーター

スピードメーターユニットにはスピードメーター、オドメーター、トリップメーターが装備されています。スピードメーターは車の速度を示します。オドメーターは走行した総距離を示します。トリップメーターは、前回リセットノブを回してリセット（ゼロ）にした時点からの走行距離を示します。

JAU11630

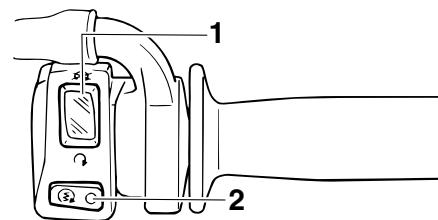
ハンドルスイッチ 左



1. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “ $\equiv\circ/\circ\equiv$ ”
2. ハザードスイッチ “ \triangle ”
3. 方向指示器スイッチ “ \leftarrow/\rightarrow ”
4. ホーンスイッチ “ \blacktriangleright ”

JAU12343

右



1. エンジンストップスイッチ “ \bigcirc/\times ”
2. スタータースイッチ “ \textcircled{S} ”

JAU12400

ヘッドライト上下切り替えスイッチ

“ $\equiv\circ/\circ\equiv$ ”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

$\equiv\circ$ （上向き）：遠くを照らします。

$\circ\equiv$ （下向き）：近くを照らします。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向き “ $\circ\equiv$ ” にしてください。

JAU12460

方向指示器スイッチ “ \leftarrow/\rightarrow ”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライ

各部の取り扱いと操作

ドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

⇒：右側の方向指示灯が点滅します。

←：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11640

▲警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11980

▲注意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。これ以外のものを使うすると、正常に作動しません。

JAU12500

ホーンスイッチ “▶”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要点

必要なときにのみ使用してください。

JAU28181

エンジンストップスイッチ “☒/○”

非常に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は○にしておきます。

JWA12100

▲警告

非常にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA12350

▲注意

●非常にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONのままですると、バッテリーあがりの原因となります。

●走行中に、エンジンストップスイッチを○→☒→○にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。また、排出ガス浄化装置の故障の原因となります。

JCA11880

▲注意

エンジンを始動させる前に、5-1ページの始動手順を参照してください。

JAU12763

ハザードスイッチ “△”

メインスイッチをONにした状態で、スイッチを“△”にスライドし、ハザードランプを点灯させます（全ての方向指示器が点滅します）。

ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JAU11890

▲注意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

要点

☒にすると、エンジンは始動できません。

JAU12710

スタータースイッチ “◎”

このスイッチを押すと、スターターモーターが回転し、エンジンが始動します。

フューエルタンクキャップ

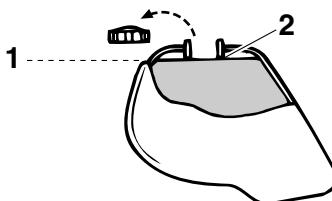
▲警告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- 給油限度を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。

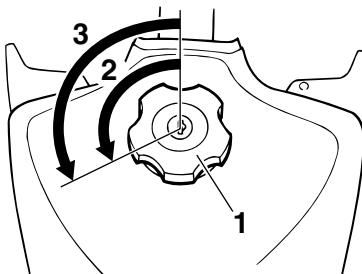
JAU28250

JWA12170



1. 給油限度
2. フィラーチューブ

フューエルタンクキャップの取り外しかた



1. フューエルタンクキャップ
2. 解除
3. 外す

1. キーをロックに挿し込み、反時計方向に1/3回します。

2. フューエルタンクキャップを反時計方向に1/3回し、キャップを取り外します。

フューエルタンクキャップの取り付けかた

1. フューエルタンクキャップをタンクの開け口に挿入し、時計方向に1/3回します。
2. キーを時計方向に1/3回し、キーを抜きます。

要点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜くことはできません。

各部の取り扱いと操作

3

燃料

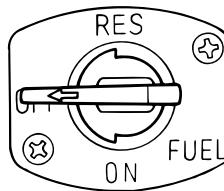
指定燃料

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 10.0 L
予備容量：
約 2.0 L

JAU31460

JAU28280

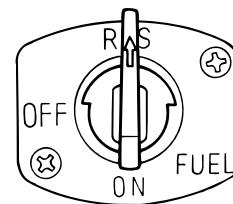
フューエルコック OFF



JAU13560

始動および走行時のレバー位置です。

RES



JCA12510

▲注意

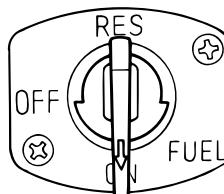
- 必ず指定燃料を使用してください。指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

駐車時のレバー位置です。
ガソリンは流れません。

要点

長期間使用しないときは、レバーを必ず OFF の位置にしてください。

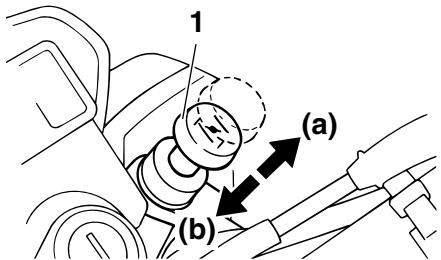
ON



予備燃料（予備容量約 2.0 L）を使用するときのレバー位置です。

ON で走行中にガソリンがなくなったら、レバーをこの位置にします。予備燃料が使用できますが早めに給油してください。給油を終えたらレバーを ON に戻してください。

チョークノブ “↓”



1. チョークノブ “↓”

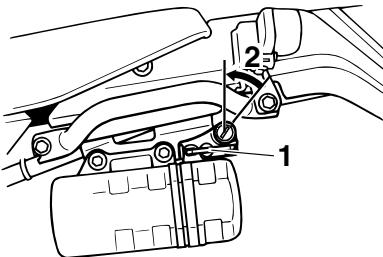
エンジンが冷えているときは、チョークを使用するとエンジン始動が容易になります。

ノブを (a) 方向に移動させ、チョークをオンにします。

ノブを (b) 方向に移動させ、チョークをオフにします。

JAU13600

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー 2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11650

▲警告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与える保護機能を低下させます。

要点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

JAU14281

JAU28460

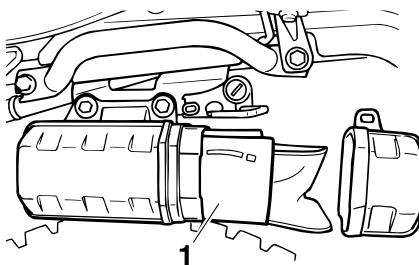
書類入れ

ヘルメットホルダーのロックを解除し、ツールボックスを開けると書類入れ（収納用ポーチ）があります。

保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。

書類入れはサービスツールの外側に巻き、ツールボックスに収納してください。

3



1. 書類入れ

JCA12290

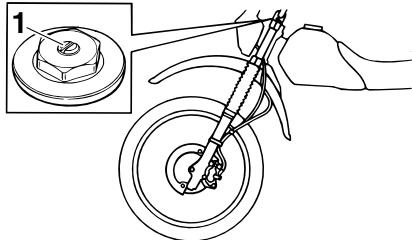
▲注意

ツールボックスはヘルメットホルダーを使用して、必ずロックしてください。

各部の取り扱いと操作

JAU14790

フロントフォークのエア抜き



3

1. ブリードスクリュー

走行により、フロントフォーク内の温度が上がると、フォーク内の空気圧が上昇し、フロントサスペンションは固くなります。このような場合、以下のようにしてフロントフォークのエア抜きを行います。

1. エンジンの下に適当なスタンドを置き、フロントホイールを持ち上げます。

要 点

フロントフォークのエア抜きの時、車前部に加重がないようにします。

2. ブリードスクリューを外し、それぞれのフォークからエアを放出させます。

JWA11490

▲警 告

エア抜きは左右のフロントフォークに対して行い、調整値が左右で異なるないようにしてください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

3. ブリードスクリューを取り付けます。

JAU14930

リヤクッシュンの調整

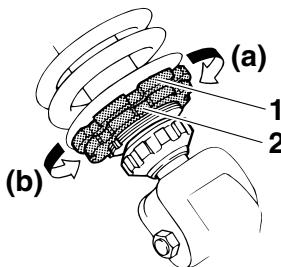
リヤクッシュンにはスプリングプリロードアジャスターと伸側減衰力アジャスターが装備されています。

JCA11910

▲注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロード

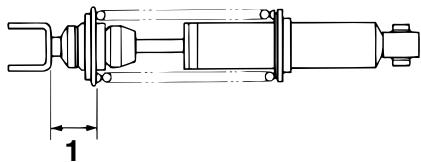


1. アジャスター

2. ロックナット

1. ロックナットをゆるめます。
2. スプリングプリロードを高くし、サスペンションをハードにするには、アジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを低くし、サスペンションを

ソフトにするには、アジャスターを (b) 方向に回します。



1. セット長 A

要 点

- サービスツール内の調整レンチを使って調整を行います。
- スプリングプリロードセッティングはイラストで示した、セット長 A を測ることで決定されます。セット長 A が長いと、スプリングプリロードは高く、セット長 A が短いと、スプリングプリロードは低くなります。

スプリングプリロード :

最小(ソフト) :

セット長 A = 36.5 mm

標準 :

セット長 A = 43.5 mm

最大(ハード) :

セット長 A = 48 mm

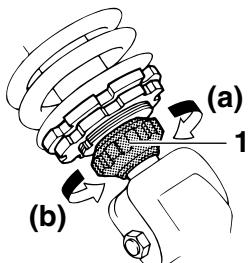
3. ロックナットを締付けます。

JCA12600

▲注意

ロックナットはアジャスターに向かって締付けてください。

伸側減衰力



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力を強め、サスペンションをハードにするには、アジャスターを (a) 方向に回し

ます。伸側減衰力を弱め、リバウンドダンピングをソフトにするには、アジャスターを(b) 方向に回します。

(アジャスターを (a) 方向にいっぱいに回してから、(b) 方向に戻して初めて節度があるところが 1 段目です。)

伸側減衰力 :

最大 (ハード) :

1 段

標準 :

14 段

最小 (ソフト) :

20 段

3

要 点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JWA11510

▲警告

リヤクッションユニットは高圧の窒素ガスを含んでいますので下記のことを厳守してください。

- 分解しない。
- 火気の中に投げ込まない。

各部の取り扱いと操作

- 廃棄するには、ガス抜きが必要です。必ずお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください

3

JAU15311

イグニッションサークットカットオフシステム

イグニッションサークットカットオフシステム（サイドスタンドスイッチ、クラッチスイッチおよびニュートラルスイッチを含む）には次の機能があります。

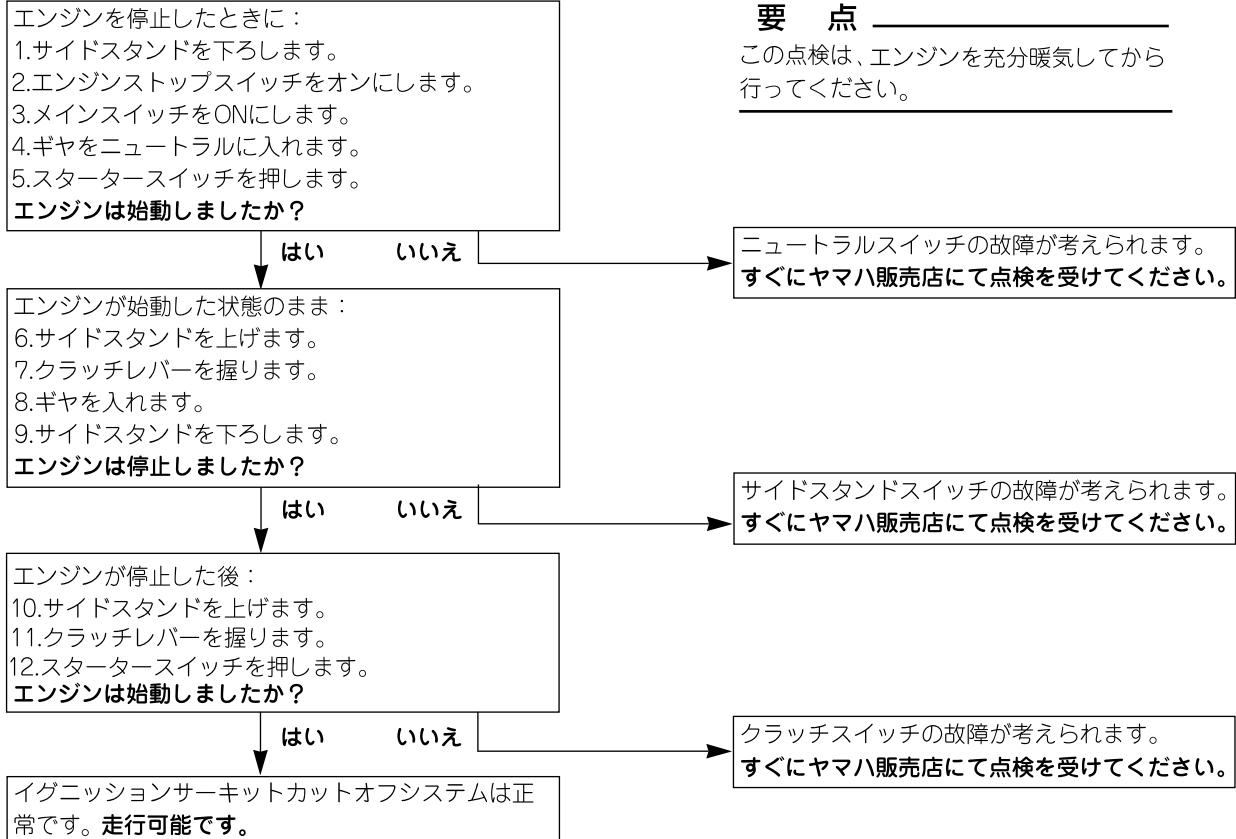
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドが上げてあるが、クラッチレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、クラッチレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドを下げるとエンジンが停止します。

イグニッションサークットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11540



点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。



日常点検

JAU15591

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、道路運送車両法で、1日1回の日常点検を行うことが義務づけられています。

必ず実施してください。

JWA12030

▲警 告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

JAU30061

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、61ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	<ul style="list-style-type: none">● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	<ul style="list-style-type: none">● タイヤの空気圧が適当であること。● 龜裂、損傷がないこと。● 異常な摩耗がないこと。● 溝の深さが充分であること。 (※)
エンジン	<ul style="list-style-type: none">● エンジンオイルの量が適当であること。(※)● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※)● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	<ul style="list-style-type: none">● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	<ul style="list-style-type: none">● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11731

▲警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

始動と暖機運転（エンジンが冷えている時）

JAU15990

▲警 告

- エンジンを始動する前に、3-10 ページに記述された手順で、イグニッションサー キットカットオフシステムの機能を点検します。
- サイドスタンドをおろした状態で走行しないでください。

1. フューエルコックを ON にします。
2. メインスイッチを ON にし、エンジンス トップスイッチが O にセットされてい ることを確認します。
3. ギヤをニュートラルにします。

要 点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

4. チョークをオンにし、スロットルを完全 に閉めます。（3-7 ページ参照）
5. スタータースイッチを押して、エンジン を始動します。

要 点

スタートスイッチで 5 秒以内にエンジン が始動しないときは、バッテリー電圧を回復 させるため、10 秒位休ませてからスター タースイッチを押してください。

6. エンジンが始動したら、20 ~ 30 秒後 にチョークを途中まで戻します。

JCA12590

▲注 意

エンジンを長持ちさせるため、発進の前には 常にエンジンを暖機してください。エンジン が冷えている間の無用な空ふかしは避けて ください。

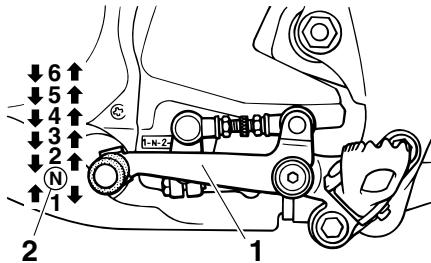
7. エンジンが充分暖まり、エンジンの回転 が安定したら、チョークをオフにします。

エンジン始動（エンジンが暖まっているとき）

エンジンが暖まっているときは、チョークを 必要としないことを除いて、エンジンが冷え ている時のエンジン始動と同じ手順で行い ます。

運転操作

ギヤチェンジのしかた



1. シフトペダル
2. ニュートラル

5

この車はリターン式の6段変速です。ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

JAU27510

ならし運転

ならし運転のしかた

初回1か月目（または1,000km走行まで）の点検までは、ならし運転をしてください。また、不要なからふかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU31470

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜き、フューエルコックをOFFにします。

JAU17170

▲警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

JWA11580

▲注意

- シフトペダルは、足ごたえがあるまで確実に操作してください。
- クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

JCA12030

点検整備の実施

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、1日1回実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行なうことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、6か月点検と12か月点検の2種類があります。

JAU29831

- 選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。
- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

▲警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。
- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を

JWA12051

要点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自分でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してく

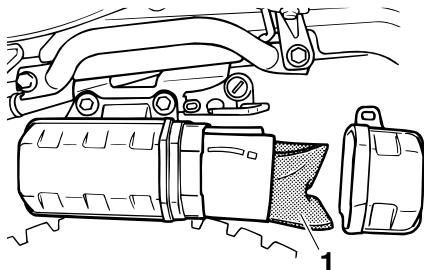
ださい。

- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

点検整備

サービスツール

ヘルメットホルダーのロックを解除し、ツールボックスを開けるとサービスツールがあります。



1. サービスツール

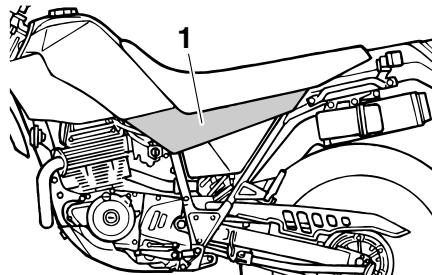
6

▲注意

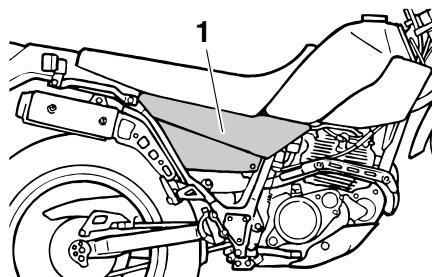
ツールボックスはヘルメットホルダーを使用して、必ずロックしてください。

JAU34450

カバーの取り外し、取り付け



1. カバーA



1. カバーB

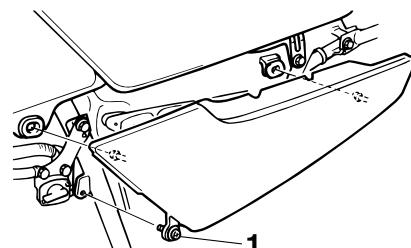
図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。

JAU18750

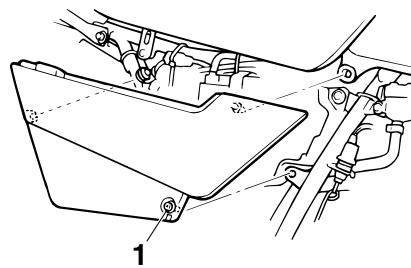
カバーA／B

カバーの取り外しかた

スクリューを外し、パネルを引き出します。



1. スクリュー



1. スクリュー

カバーの取り付けかた

もとの位置にカバーを取り付け、スクリュー

JAU19272

を締め付けます。

JAU30370

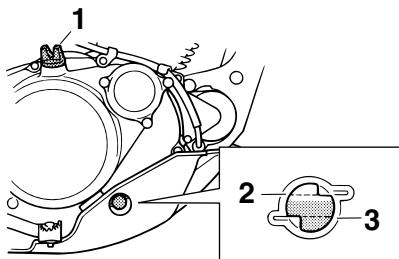
エンジンオイル エンジンオイル量の点検

- 平坦な場所でエンジンを2~3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンを充分に暖機してあれば、アイドリング運転は不要です。

- エンジンを止めて車を垂直にし、2~3分後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。

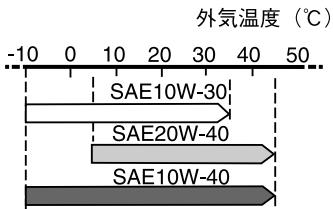


- オイル注入口
- フルレベル
- ロアレベル
- オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。

<推奨エンジンオイル>

	SAE	JASO
ヤマハ純正オイル エフェロプレミアム	10W-40	MA
ヤマハ純正オイル エフェロスポーツ	10W-40	MA
ヤマハ純正オイル エフェロベーシック	20W-40 または 10W-30	MA

エンジンオイルの粘度は、外気温によって表を参考にして使いわけてください。



点検整備

エンジンオイルの交換時期

JAU30540

初回：

1か月点検時または 1,000km 時

2回目以降：

3,000km 走行毎または 1年毎

はクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。

- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

オイルフィルターの交換時期

初回：

1か月点検時または 1,000km 時

2回目以降：

9,000km 走行毎

JAU30690

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がしないかを点検します。

▲警告

- 走行後やエンジン暖機運転後、しばらくの間はマフラー やエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JWA11860

6

▲注意

- 化学添加剤は一切加えないでください。またヤマハ純正オイルエフェロ FX をこの車に使用しないでください。エンジンオイル

JCA12100

低速、加速の状態の点検

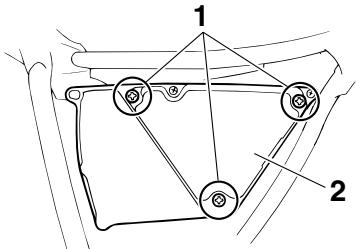
暖機運転後に、アイドリングがスムーズに続
くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジン
を加速したとき、スロットルグリップもエン
ジンもスムーズに回るかを走行などして
点検します。このとき、エンジンストップ
(エンスト)やノックキングなどが起きたら、ヤ
マハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU30700

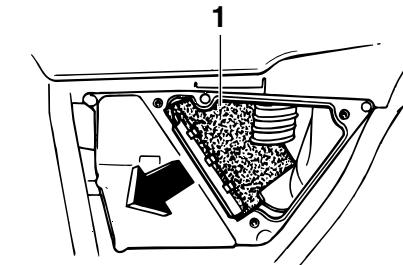
エアクリーナーエレメントの清掃

1. カバー A を取り外します。(6-2 ページ
参照)
2. スクリューを外し、エアクリーナーケー
スカバーを取り外します。

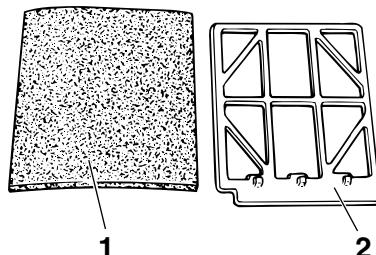


1. スクリュー
2. エアクリーナーケースカバー
3. エアクリーナーケースからエアクリー
ナーエレメントを引き出します。

JAU20850



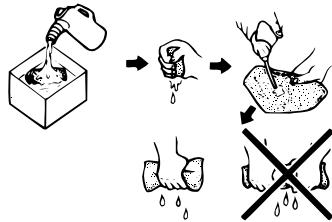
1. エアクリーナーエレメント
4. エアクリーナーエレメントフレームから
エアクリーナーエレメントを取り外しま
す。



6

1. エアクリーナーエレメント
2. エアクリーナーエレメントフレーム
5. エアクリーナーエレメントをきれいな灯
油で洗い、軽くしぼります。

点検整備



JWA12250

▲警告

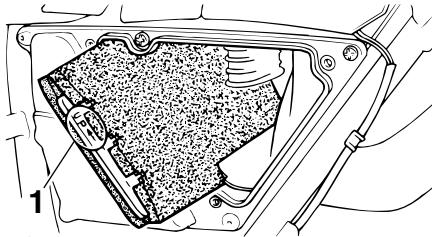
ガソリンや引火性の高い洗浄剤は引火のおそれがありますので、使用しないでください。

6

6. ME-R フィルターオイルをエアクリーナーエレメントの表面全体に塗布してから乾いた布切れなどで包み、軽くしづります。
7. エアクリーナーエレメントをエアクリーナーエレメントフレームに取り付け、エアクリーナーケースに差し込みます。

要点

エアクリーナーエレメントのグレー側が前向き、またUPマークが図のように示している状態で取り付けます。



1. "UP"マーク

JCA11940

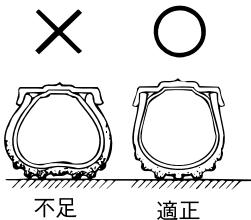
▲注意

- 破れなどのあるものは交換してください。
- エアクリーナーエレメントに水や油などを付かないでください。水や油などが付着して汚れているものは交換してください。
- エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやほこりがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響を与えます。確実に取り付けてください。
- 洗車時にエアクリーナーケースに水を入れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。
- 著しくほこりなどの多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検、清掃を行ってください。

掃を行ってください。

8. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリュを締め付けます。
9. カバーを取り付けます。

タイヤ 空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
この車は後輪にチューブレスタイヤを装着してあります。

JAU31030

タイヤ空気圧：

1名乗車：

前輪：

125 kPa (1.25 kgf/cm²)

後輪

150 kPa (1.50 kgf/cm²)

2名乗車：

前輪：

150 kPa (1.50 kgf/cm²)

後輪

175 kPa (1.75 kgf/cm²)

高速走行：

前輪：

150 kPa (1.50 kgf/cm²)

後輪

175 kPa (1.75 kgf/cm²)

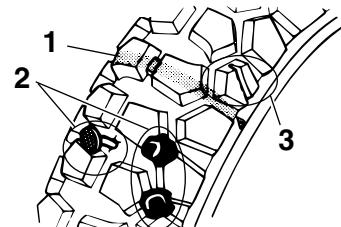
JAU28660

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はフロントにチューブタイヤ、リヤにチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. ウエアインジケーター（摩耗限度表示）
2. 異物（釘、石など）
3. 亀裂、損傷

JAU28700

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28820

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要 点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8 mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的にト

点検整備

レールタイプのタイヤは前輪、後輪とも溝の深さが4mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11910

▲警告

- 異なった種類のタイヤや指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に悪影響がありますので使用しないでください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

6

タイヤサイズ：

前輪：

2.75-21 45P

後輪：

120/80-18M/C 62P

指定タイヤ：

前輪：

BRIDGESTONE/TW301

DUNLOP/D605F

後輪：

BRIDGESTONE/TW302

DUNLOP/D605

JAU28970

クラッチ

クラッチレバーの遊び

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び

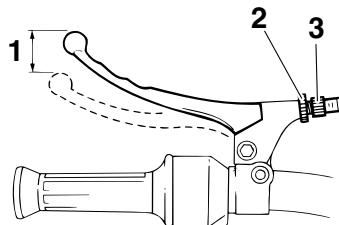
10.0–15.0 mm

ムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA12090

▲注意

- 調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。
- 1か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。ケーブルの寿命が伸びます。



- 1.遊び
- 2.ロックナット
- 3.アジャスター

点検の結果調整が必要な場合は、カバーをはずし、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。

JWA11840

▲警告

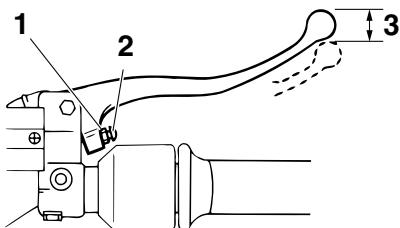
調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがス

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

<前輪ブレーキ>

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが 2.0–5.0 mm の範囲にあるかを点検します。



1. ロックナット
2. アジャスター
3. 遊び

点検の結果調整が必要な場合は、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。

JAU31111

▲注意

調整後、ロックナットを確実に締め付けます。

JCA12070

▲警告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりがないかを確認してください。

JWA11850

<後輪ブレーキ>

ブレーキペダルは無調整式です。ブレーキペダルを手で押し、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11740

▲警告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11760

▲警告

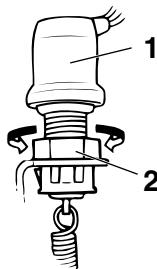
走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU22270

ブレーキランプスイッチ

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。

リヤブレーキランプスイッチの調整は、スイッチを指で押さえ、アジャスターを回して行います。



1. ブレーキランプスイッチ
2. アジャスター

6

JCA12080

▲注意

リヤブレーキランプスイッチを調整するときは、スイッチ本体を回さないでください。スイッチ本体を回すと、リード線を傷付けます。

フロントブレーキをかけたときもブレーキランプが点灯するか点検します。

点検整備

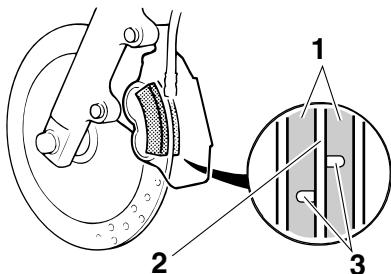
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドのインジケーター溝の深さで摩耗の状態を点検します。

インジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

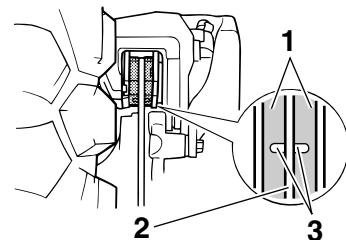
前輪ブレーキ



1. ブレーキパッド
2. ブレーキディスク
3. インジケーター溝

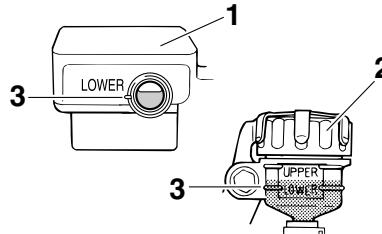
JAU29580

後輪ブレーキ



1. ブレーキパッド
2. ブレーキディスク
3. インジケーター溝

ブレーキ液量の点検



1. フロントブレーキマスターシリンダー
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

マスターシリンダーキャップ（リザーバータンクキャップ）上面を水平にして、ブレーキリザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

（ブレーキ液の補給は、6-11 ページ参照）

警 告

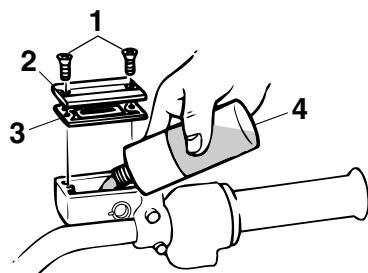
ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。

JAU30000

ブレーキ液の補給

<前輪ブレーキ>

1. マスターシリンダーまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムを取り外します。
3. ロアレベル以上になるようにブレーキ液を補給します。



1. スクリュー
2. キャップ
3. ダイヤフラム
4. ブレーキ液
5. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、スクリューでキャップを取り付けます。

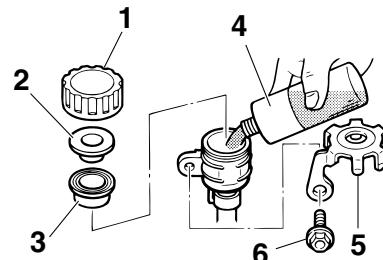
<後輪ブレーキ>

1. リザーバータンクまわりをきれいにし、

JAU31230

異物がタンク内に入らないようにします。

2. ボルトを外し、ホルダー、キャップ、ダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ロアレベル以上になるようにブレーキ液を補給します。



1. キャップ
2. ダイヤフラムブッシュ
3. ダイヤフラム
4. ブレーキ液
5. ホルダー
6. ボルト
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意してキャップを取り付け、ホルダーで固定します。

点検整備

指定ブレーキ液：

ヤマハ純正ブレーキフルード
BF-4 (DOT-4)

JWA12070

▲警告

- ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキの動き具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。
- 液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために1年毎の交換をおすすめします。

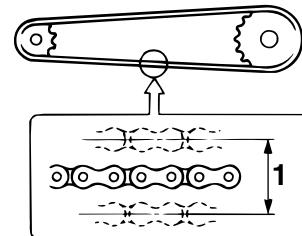
類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。

JAU22760

ドライブチェーン

JAU22770

ドライブチェーンの点検



1. ドライブチェーンのたわみ量

サイドスタンドを立て、前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

また、リヤホイールを浮かし、タイヤを手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

▲注意

- ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。
- ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム

JCA12330

ドライブチェーンたわみ量：

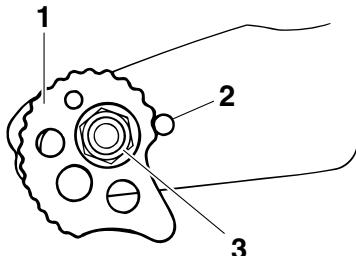
35.0–45.0 mm

JAU22960

チェーンの張り調整

1. セルフロッキングナットをゆるめます。

2. チェーンブラーを左右均等に回転させ、同じ位置でストッパーに合わせます。(目盛りを左右同位置にします。)



1. チェーンブラー
2. ストッパー
3. セルフロッキングナット
3. 張り具合が規定値になるように調整します。
4. 調整後、セルフロッキングナットを確実に締め付けます。

JAU23021

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ME スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンに ME-180 チェーンオイルを給油します。

JCA12470

▲注意

この車はシールチェーンを採用しています。
取り扱いには以下の点に注意してください。

- スチーム洗浄はしないでください。
- シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。

JAU28600

バックミラー

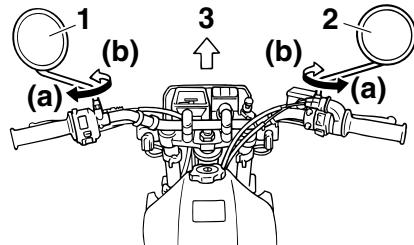
バックミラーの取り付けおよび取り外しかた

- 右バックミラーは左ネジです。

左：反時計回り (a) に回すと締まります。
右：時計回り (b) に回すとゆるみます。

- 左バックミラーは右ネジです。

右：時計回り (a) に回すと締まります。
左：反時計回り (b) に回すとゆるみます。



6

1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 進行方向

点検整備

車体各部の給油脂状態の点検

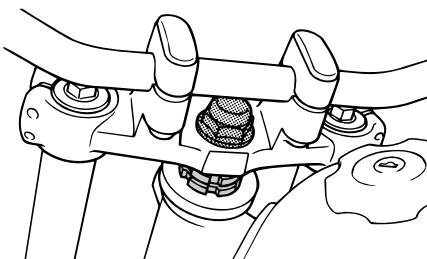
車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28620

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングシステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28650

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。

バッテリー液の補充、点検は不要です。

バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JAU28760

警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣

JWA11810

服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。

- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12140

▲注意

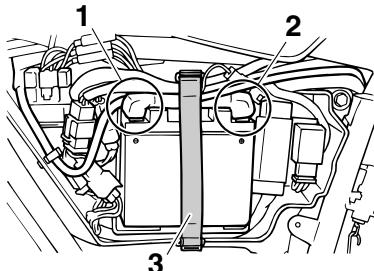
- このバッテリーは密閉式の12Vです。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、6か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU28910

バッテリーの取り外し

1. カバーBを取り外します。(カバーの取り外しは6-2ページ参照)

2. バッテリーバンドを外します。
3. - (マイナス) 側リード線を外し、次に + (プラス) 側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



1. -リード線
2. +リード線
3. バッテリーバンド

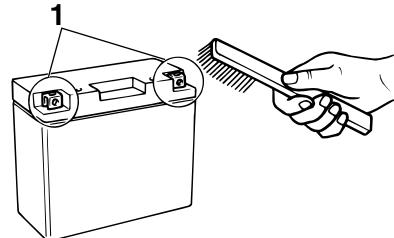
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29410

ターミナル部の清掃

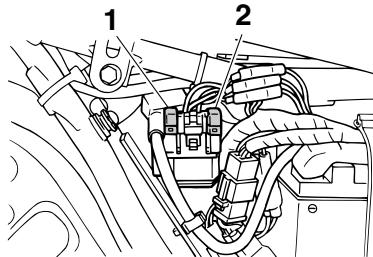
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



1. ターミナル

点検整備

ヒューズの交換



1. ヒューズ
2. スペアヒューズ

ヒューズホルダーは、カバーBの後ろにあります。(カバーの取り外しは6-2ページ参照)
ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. メインスイッチをOFFにします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

規定ヒューズ：
20.0 A

JAU23500

しないでください。

- 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類(ライト、計器など)を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリー上がりを起こすことがあります。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡(ショート)の原因になります。
- 3. メインスイッチをONにし、電気回路をオンにして装置が作動することを点検します。
- 4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JAU29440

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチをONにします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトが良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検(6-16ページを参照)し、異常がないときは電球を交換(「製品仕様」のページを参照)してください。

JCA12060

▲注意

電球は、正規の規格と同じものと交換してください。これ以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

▲注意

- 交換するヒューズは、規格外のものを使用

JCA12860

JAU29570

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

お車の手入れ

JAU27780

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- スチーム洗車や水道ホースなどで、車に直接圧力をかける洗車をしないでください。キズの原因になります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。



JWA11930

▲警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車後、ブレーキの効きが悪くなることが

JAU27830

あります。効きが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。

- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12210

▲注意

- エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部分を傷つけますので使用しないでください。

要点

ツールボックス付近に水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはマフラーが冷えてからかけてください。

JAU28061

▲注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- 保管する前にワックス掛けをしてください。サビを防ぐ効果があります。
 - キャブレター内のガソリンをすべて抜き取ってください。内部のつまりなどを防ぎます。
 - 6か月ごとにバッテリーの補充電をしてください。
 - 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。
- ※補充電およびガソリンの抜き取りは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12431

アフターケア用品について

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

JAU28080

4サイクルオイルエフェロプレミアム

高回転・高負荷下でも油膜保持性能が高く、高性能エンジン搭載の中・大型車に最適な高品質オイルです。

4サイクルオイルエフェロスポーツ

オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなどでも優れた性能を発揮するマルチタイプのオイルです。

4サイクルオイルエフェロベーシック

一般走行、業務用に最適なコストパフォーマンスオイルです。



1. エフェロプレミアム

2. エフェロスポーツ

3. エフェロベーシック

JAU28110

ME-Rフィルターオイル

ヤマハコンペティションモデル専用に開発したフィルターオイルです。火山灰、サンド、赤土、泥ねい、泥水など、全日本MXラウンド全ての状況を考慮して開発・テストしていますので、車は常に優れた性能を発揮できます。

お車の手入れ



JAU28200

ブレーキフルード BF-4

高沸点、防錆性、安定性、ゴム劣化防止性に優れたブレーキフルードです。



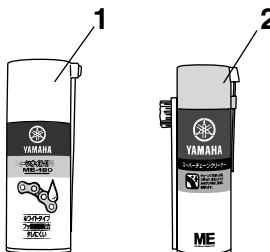
JAU28220

ME-180 チェーンオイル

フッ素樹脂配合により耐摩耗性、耐熱性に優れたチェーンオイルです。“ドライ”と“ウェットムースタイプ”があります。

ME スーパーチェーンクリーナー

チェーンに付着したグリースやオイルなどの油汚れを手軽に素早くクリーニングします。



1. ユニコンカークリーム
2. ME-180 (防錆潤滑剤)

JAU28360

ユニコンカーカリーム (ワックス)

塗装面の汚れを簡単にとり、手間をかけずに美しい光沢が得られます。また、どんな塗装にも使用できる伸びのよいワックスです。

ME-180 (防錆潤滑剤)

防錆、潤滑、防湿、浸透力に優れた金属保護液です。

寸法:

全長:
2070 mm
全幅:
805 mm
全高:
1150 mm
シート高:
810 mm
軸間距離:
1350 mm
最低地上高:
285 mm

重量:

乾燥重量:
108.0 kg
車両重量:
122.0 kg
分布荷重(前):
56.0 kg
分布荷重(後):
66.0 kg
車両総重量:
232.0 kg
分布荷重(前):
79.0 kg

JAU26333

分布荷重(後):

153.0 kg

乗車定員:

2名

性能:

定地燃費(国土交通省届出値):
46.0 km/L/60.0 km/h
最小回転半径:
1900 mm
最高出力:
15.00 kW@8000 r/min
(20.4 PS@8000 r/min)
最大トルク:
19.00 Nm@7000 r/min
(1.94 kgf·m@7000 r/min)

原動機:

原動機種類:
4サイクル空冷 SOHC
気筒数・配列:
単気筒
総排気量:
223.0 cm³
内径×行程:
70.0 × 58.0 mm
圧縮比:
9.50 : 1

エアフィルターエレメント:

湿式ウレタンフォーム

クラッチ形式:

湿式多板

ミッション・チェンジ方式:

常時かみ合式 6速

始動方式:

セル式

車体:**フレーム形式:**

ダイヤモンド

キャスター:

26.50°

トレール:

102.0 mm

ステアリングシステム:**ハンドル切れ角(左):**

51.0°

ハンドル切れ角(右):

51.0°

燃料:**フューエルタンク容量:**

10.0 L

予備容量:

2.0 L

製品仕様

フロントブレーキ:

ブレーキ形式:

油圧式シングルディスクブレーキ

リヤブレーキ:

ブレーキ形式:

油圧式シングルディスクブレーキ

懸架方式:

種類（前）:

テレスコピック

種類（後）:

スイングアーム（リンク式）

緩衝方式:

ショックアブソーバータイプ（前）:

コイルスプリング／オイルダンパー

ショックアブソーバータイプ（後）:

コイルスプリング／ガスオイルダンパー

フロントタイヤ:

種類:

チューブ有

サイズ:

2.75-21 45P

メーカー／銘柄:

BRIDGESTONE/TW301

メーカー／銘柄:

DUNLOP/D605F

リヤタイヤ:

種類:

チューブレス

サイズ:

120/80-18M/C 62P

メーカー／銘柄:

BRIDGESTONE/TW302

メーカー／銘柄:

DUNLOP/D605

トランスマッision:

1次減速比:

73/22 (3.318)

1速:

34/11 (3.090)

2速:

30/15 (2.000)

3速:

30/21 (1.428)

4速:

27/24 (1.125)

5速:

25/27 (0.925)

6速:

23/29 (0.793)

2次減速比:

45/15 (3.000)

エレクトリカル:

点火方式:

C.D.I.

ヘッドライト形式:

バルブタイプ

ヘッドライト球:

ハロゲンバルブ

バルブワット数 × 個数:

ヘッドライト:

12 V, 60 W/55.0 W × 1

テール／ブレーキランプ:

12 V, 5.0/21.0 W × 1

方向指示灯（前）:

12 V, 10.0 W × 2

方向指示灯（後）:

12 V, 10.0 W × 2

メーター灯:

12 V, 3.4 W × 1

パイロットランプワット数 / 個数:

ニュートラルランプ:

12 V, 3.4 W × 1

方向指示器表示灯:

12 V, 3.4 W × 1

ヘッドライト上向き表示灯:

12 V, 1.7 W × 1

エンジンオイル:

指定オイル:

ヤマハ4サイクルオイルエフェロブ
レミアム、スポーツ、ベーシック**エンジンオイル容量:**

オイルフィルターエレメント無交換時:

1.00 L

オイルフィルターエレメント交換時:

1.10 L

ドライブチェーン:

たわみ量:

35.0–45.0 mm

ブレーキレバーとブレーキペダル:

クラッチレバー先端部の遊び:

10.0–15.0 mm

フロントブレーキレバー遊び:

2.0–5.0 mm

フロントディスクブレーキ:

パッド厚さ－内側:

5.3 mm

使用限度:

0.8 mm

パッド厚さ－外側:

5.3 mm

使用限度:

0.8 mm

指定ブレーキフルード:

DOT 4

リヤディスクブレーキ:

パッド厚さ－内側:

4.7 mm

使用限度:

1.0 mm

パッド厚さ－外側:

4.7 mm

使用限度:

1.0 mm

ホイールトラベル:

ホイールトラベル（前）:

225.0 mm

ホイールトラベル（後）:

190.0 mm

フロントサスペンション:

オイル量:

394.0 cm³

オイルレベル:

106.0 mm

タイヤ空気圧（冷間時）:

前輪（1名乗車）:

125 kPa (1.25 kgf/cm²)

後輪（1名乗車）:

150 kPa (1.50 kgf/cm²)

前輪（2名乗車）:

150 kPa (1.50 kgf/cm²)

後輪（2名乗車）:

175 kPa (1.75 kgf/cm²)

高速走行（1名乗車）:

前輪:

150 kPa (1.50 kgf/cm²)

後輪:

175 kPa (1.75 kgf/cm²)**バッテリー:**

バッテリー型式:

GT6B-3

バッテリー容量:

12 V, 6.0 Ah

点火タイミング:

点火時期（B, T, D, C.）:

9.0° /1400 r/min

スパークプラグ:

メーカー / 型式:

NGK/DR8EA

メーカー / 型式:

DENSO/X24ESR-U

プラグギャップ:

0.6–0.7 mm

製品仕様

ヒューズ容量:

メイン:

20.0 A

サービスマニュアル(別売)の紹介
 サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明しております。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
 サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

XT225WE サービスマニュアル 部品番号：

- 基本版： 4JG-28197-00
- 追補版： 4JG-28197-05
4JG-28197-06
5MP-28197-05

※追補版は、マイナーチェンジなどで機構に変更があったときに、その変更部分のみを説明したサービスマニュアルです。基本版とあわせてご使用ください。

JAU28370

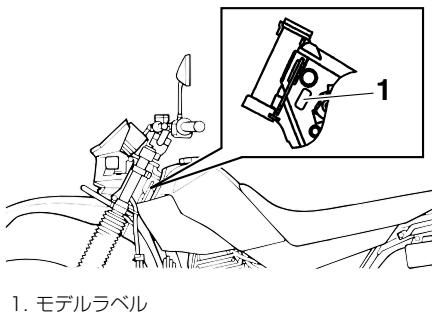
車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、フューエルタンク前方のフレーム左側に貼り付けてあります。



JAU28410

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は

セロー XT225WE

モデルラベル

製品仕様を示しています。

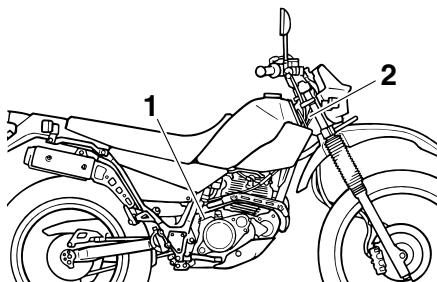


カラーリングを示しています。



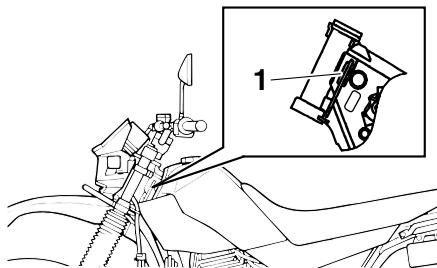
車台番号、原動機番号、型式認定番号
 ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。



1. 原動機番号
2. 車台番号

ユーザー情報



1. 型式認定番号

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナنسノートの
巻末をご覧ください。

QQS-CLT-103-5MP

再生紙を使用しています



ヤマハ発動機株式会社
〒438-8501 静岡県裾野市新貝2500

PRINTED IN JAPAN
2003.12-0.4 × 1
(J)